

様式 4

様式4は「医科保険診療以外のある症例調査票」である。

様式1, 診療報酬請求情報 (EFファイル等) は医科保険診療の実績データに限定して収集することにしており, 自賠責や正常分娩など他の支払方法に基づいた診療との併用や, 歯科診療との組み合わせ等がある入院症例の場合に, 在院日数や診療報酬などが特異値となってしまうことが考えられる。

様式4としてこのような症例を識別するデータを収集することにより, より精度の高いデータ収集を図り, 分析精度を高めることを目的とする。

なお, 様式4は, 下記要領に従って提出すること。

【ファイルレイアウト例】

施設コード	データ識別番号	入院年月日	退院年月日	医療保険外との組合せ
01000001	000001256	20120405	20120706	1
01000001	000005438	20120412	20120704	2
01000001	000004524	20120507	20120714	1
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

1. 調査対象

すべての退院症例 (自費のみの症例を含む。) が原則として対象となる。

入院を通してどのような支払いがなされたのかの実績について, 退院時点での確定情報で, データを作成する。

2. 入力方法

すべて半角数字でデータを入力すること。

施設コード	9桁の半角数字 (都道府県番号+医療機関コード)		
データ識別番号	10桁の半角数字 (満たない場合は前ゼロ追加)		
入院年月日	yyyymmdd		
退院年月日	yyyymmdd		
医療保険外との組合せ	該当するものを下記のコードにより入力		
	コード	区 分	内 容
	1	医科レセプトのみ	医科レセプトのみの場合, 市販後調査, 保険優先公費と医科レセプトの併用
	2	歯科レセプトあり	歯科レセプトのみ, 医科レセプトと歯科レセプトの併用
	3	保険請求なし	100%企業負担の治験, 学用100%, 他制度 (公害レセ, 労災レセ, 自賠責) のみ。正常分娩, 人間ドック等の自費のみ
	4	保険と他制度の併用	公害レセ, 労災レセ, 自賠責と医科レセプトの組み合わせ療養費のうち, 治験, 先進医療
	5	その他	臓器提供者等, 上記"1"~"4"以外の症例

3. ファイル

- (1) データはテキストファイルタブ区切りとする。
- (2) 様式4の入力データフォーマット (Excel ファイル等) は配布しない。

Q&A

Q : 正常分娩で自費にて入院したが, 一部投薬のみ医科保険の適用となった。この場合「医療保険外との組み合わせ」はどのようなになるのか。

A : 「5. その他」となる。

Q&A

Q：オムツ代、病衣代、個室代のかかった患者の「医療保険外との組み合わせ」は「4. 保険と他制度の併用」となるのか。「5. その他」となるのか。

A：様式 4 の「医療保険外との組み合わせ」は医科保険の適用範囲（入院料や手術等）を指し、オムツ代等は自費とはいわない。医科保険で適用される範囲が自費だったのか保険だったのかで判断のこと。

Q&A

Q：正常分娩で自費にて入院したが、帝王切開となり医科保険に切り替えた。この場合「医療保険外との組み合わせ」はどのようなになるのか。

A：「5. その他」となる。

Q&A

Q：検診入院も含め全患者分が必要か。

A：必要。全患者分提出のこと。

D, E, Fファイル

Dファイルは「包括レセプト情報」、Eファイルは「診療明細情報」、Fファイルは「行為明細情報」である。

これらのファイルについては、レセプトデータダウンロード方式 (RDDL方式) を導入して作成することが有効であり、RDDL方式については資料『DPC導入の影響評価』に係るレセプトデータダウンロード方式によるレセプト情報データ収集について』(第10版 厚生労働省保険局医療課) にその詳細が提示されているので、「Ⅲ 関係資料」に掲載の当該資料を参照すること。

Q&A

Q：データを再提出したいが、作成する時点が異なるため、異なるデータとなってしまうがよろしいか。
例)

- ・ 保留レセプトとしていたものが初回提出分には出力されていないが、レセプトが確定したため今回再提出分に反映される。
- ・ 健康保険証の提出がなかったため自費扱いとなり DEF ファイルの対象外だったが、後日提出があり対象になり、今回再提出分に反映される。

A：データを再作成した時点のものでよい。但し、様式4を確認し修正が必要であれば、様式4も修正、再提出のこと。

Q&A

Q：当院はDPC準備病院であるが、退院時処方においてFファイルのF19出来高包括フラグは「1」としなければならないのか。

A：そのとおり。DPC準備病院であっても例外なく退院時処方「1」とする。エラーと思われるものについては、DPC準備病院であっても再提出を求める。

Q&A

Q：当院はDPC参加病院であるが、DPC算定患者分のみ退院時処方においてFファイルのF19出来高包括フラグを「1」とすればよいのか。

A：DPC算定、出来高に関係なく、退院時処方であれば必ず「1」とすること。

Q&A

Q：退院時処方とはなにか。

A：退院後に在宅において使用するための薬剤を退院時に処方すること。

III

關係資料

病名入力の留意点

【基礎調査における傷病名の選択と ICD コーディング：その原則】

1. 原則

- 1) 日本語病名と ICD コード対応関係に、最大限の注意を払ってください。
- 2) ICD 付与に関しては、疾病、傷病および死因統計分類提要：ICD-10（2003 年版準拠）第 2 巻（内容例示表）をご確認下さい。17 年度以前とは異なり、「2003 年版準拠」となっているのでご注意ください。また、ICD コーディングの定義、ルール等は第 1 巻をご確認ください。
- 3) 病名に関しては、病名に含まれる情報として、
 - ・ 部位
 - ・ 病理学的区分両方を明示するように、ご配慮ください。

※DPC は、基本的な構造として、傷病名の部位と病理から決定されます。両方が明示無い場合、その他以外の DPC に区分され、結果的にミスコーディングと指摘されてしまうことがありますのでご注意ください。

※医療情報システム開発センター、システムベンダー各社等が提供する「傷病名マスター」を使う場合、すべての ICD 分類がそこに含まれていない場合があります。また、全ての傷病名を網羅していない場合があります。あくまで ICD-10 第 2 巻を ICD コーディングの解釈としてください。第 3 巻の索引をみてそのままコーディングするのではなく必ず第 2 巻で確認をしてください。相互に差違があった場合は 2 巻を優先してください。

2. 細則

- 1) 傷病名を表記する場合、出来るだけ、部位を ICD が求めるレベルまで明示するように配慮してください。傷病名の表記には、詳細な情報が含まれるにも関わらず、詳細不明等として「.9」を付与されているケースが多く見られますのでご注意ください。
- 2) 処置名、手術名、検査名、分娩法等は病名ではありません。診療行為を行うに至った、もしくは原因となった傷病名を記載してください。
- 3) 略語の使用も避けてください。保険診療の範囲内において、傷病名は原則として日本語で正確に記載していただく必要があります。
- 4) 「～術後（状態）」「～既往」「～処置後」は状態を表している用語であり、原則として使用を避けてください。術後に何らの障害が発生したのであれば、その傷病名を表示してください。
※例：胃全摘術後→胃体部癌等
- 5) 「～再発」「～術後再発」の場合、“～”は、例えば、手術・処置名等ではなく、傷病名であるべきで、それに対する ICD を付与してください。さらに上記 1) で示したことに配慮してください。
※例：冠動脈形成術後再発
- 6) 「両側性」を必要とする ICD コードには、「両側性」などの詳細な傷病名記載が必要です。記載の無い場合、判断がつかないために、片側と取り扱われてしまいます。片側等については、左右、上下等を明示してください。
- 7) 骨折に関して、「開放性」の場合は、「開放性」の記載が必要です。記載が無い場合、判断がつかないために、「閉鎖性」と取り扱われてしまいます。
- 8) 悪性新生物（腫瘍）の場合、「悪性」または「癌」などの記載が必要です。記載が無い場合は、ICD10 コードは詳細不明に分類され、診断群分類が良性となる場合があります。また「性状不詳」や判断がつかない場合も診断群分類は良性となる場合があります。転移性、再発の場合は、原発と区別がつくように配慮してください。特段の表示がない場合は、原発と取り扱います。
- 9) 先天性疾患の分類である Q コードを選択する場合、その病名が単独では明らかに先天性疾患でない場合、必ず「先天性」の表記をしてください。表記が無い場合、「後天性」と判断される場合があります。
- 10) 多発 ICD コードの場合、多発性だと認識出来るように、必ず「多発性」の表記をしてください。また、多発性の損傷等、そのうちのどれか一つを主要病態と選択出来ない場合に限り、多発性を表示するためのコードを選択してください。詳細は、ICD10 第一巻 149 頁「第 XIX 章：損傷、中毒およびその他の外因の影響」を確認してください。
- 11) 単発性における指（趾）の記載については、ICD が求める範囲で解剖学的に確認して、必ず必要な部位

を記載してください。

- 12) 母体に問題があった新生児又は胎児で、P00～P05 までを使用する場合は、「～母体児」の記載が必要です。

※例：慢性C型肝炎母体児等

- 13) 同一入院で、手術や処置に強く関連した続発症の記載は、本来の傷病名や関連しない傷病名との区別がつかないので、その接頭語として可能なかぎり「術後」又は「処置後」の記載をしてください。

※術後胆嚢炎等

ただし、当該入院期間と関連しない入院の場合は、その限りではありません。

- 14) 「～症候群」の場合、ICD が定義する症候群以外、特に極めて希な症候群の場合は、当該症候群の中で、一番問題となった病態に対する病名の表記をしてください。

【傷病名付与と ICD コーディングの留意点】

※まず、「基礎調査における傷病名の選択と ICD コーディング：その原則」をご確認ください。本ドキュメントはその原則に基づいて過去のデータ検証の結果から、特にご注意をお願いしたい留意点をまとめたものです。あくまでも注意すべき点であって、エラーや使用禁止ということではありません。

1. 傷病名全般について：

- 1) 「主傷病名」、「入院の契機となった傷病名」、「医療資源を最も投入した傷病名」、関連する ICD コードは必ず入力してください。データ提出の際には、これらの傷病名そして ICD コードが全て埋まっていることをご確認下さい。3種類の傷病名が同一であっても全て埋めてください。

- 2) 入力された内容は、提示された仕様に合致しているか、ご確認ください。

- 3) 不適切なデータ（仕様に対するエラー）が発生する要因の主な例

- (1) システム上の問題と考えられること

- (i) 存在しない (ICD) コードがある
(ii) 文字化け、桁数不適、不要文字の存在等がある

※「*」、「“」、「大量のスペース」「・」「/」等

(例) Null、空白、不要なスペース

- (2) データ取扱の根本的問題（チェックがなされていない、または不十分）

- (i) 入力がされていない（空欄のまま）
(ii) 誤字、脱字、意味不明文字・用語（本来の傷病名がわからない）がある

※ミスタイプ等が原因と思われるもの

腫→種、再発→里発、肺癌→肝癌、中葉→虫葉、腎→仁、脳→胸、腺→線、他

- (iii) 略語、不明なシンボル、施設独自のルールによると考えられる文字（傷病名）

(例) 脳S、喉頭K、神1、外傷1、等

- (3) ICD コーディングの問題

- (i) 傷病名と ICD が一致しない（誤っている）

- (ii) unspecified コード（.9 等）が多数存在する→傷病名に詳細な情報があるにもかかわらず「.9」とコードされているものがある。

(例) 噴門部癌（正しいコードはC16.0）と表示されているにもかかわらず、C16.9（胃部位不明）等でコーディング

- (iii) 逆に、傷病名に詳細な情報がなく曖昧になっているにもかかわらず、ICD コードは詳細に与えられている（恐らく、表示されている傷病名とは全く異なる情報でコーディングしていると推察される）

(例) 胃腫瘍（C16.2）とコーディングしているが、C16.2は胃体部癌である

- (iv) そもそも傷病名として適切でないものが含まれる→ICD の分類名そのまま等

※ICD の分類名は臨床病名とは異なるものである→あくまで臨床病名を入力すべきであって、場合によっては、全く傷病名の意味をなさないケースがある

(例) その他および部位不明の悪性新生物（C76）、その他の脳神経障害（G52）、その他の診断名

不明確な心疾患 (I51.8) 等

2. 傷病名の入力方法など詳細について：

1) 修飾語の取り扱い：

システム上、「良性」、「悪性」等を修飾語として処理し、マスター部分 (Lead term.) との組み合わせで傷病名を構成する方法は汎用的に行われていると思われまます。そのようなシステム下において、データ提出時に修飾語コードを単純に削除したため、部位詳細不明コードになっていると推察される例が多く見られます。つまり、マスター部分の傷病名に付与されている ICD コードは、修飾語によってカバーすることを前提としてふられているために、極めて曖昧なコードとせざるを得ないという問題があります。

したがって、このようにシステムの修飾語コードを使用している場合は特に注意が必要となり、通常、傷病名の意味を考え直し、再コーディングが必須となります。以下にいくつか例示しますが、傷病名の構成については十分にご理解いただき、正しい ICD コードが付与されるような運用をしていただく必要があります。

以下に MEDIS 標準病名集に存在するコードを使って例示してみました。

(1) 良性、悪性、部位の区別

「悪性 (修飾語)」+「噴門部 (修飾語)」+胃腫瘍 (D37.1) →本当は噴門部癌 (C16.0) という正しいコードが存在する。しかし、D37.1 の胃の性状不明の新生物、詳細不明のコードに分類されてしまう。

(2) 部位が明確になっていない

「尺骨 (修飾語)」+骨折 (T14.20) →本当は尺骨骨折 (S52.20) という正しいコードが存在する。しかし、T14.2 の部位不明の骨折のコードに分類されてしまう。

※つまり、部位や病勢等によって ICD は変化することを理解しておかなければなりません。

2) ICD コード取り扱いの基本 (仕様)

(1) ICD の表示には、半角・大文字を使用してください。

(2) ICD10 は、原則として全桁ふってください。

(i) 特に、以下については、診断群分類に分類する際に4桁目のコードが必須ですので留意してください。

- ・糖尿病 (E10~E14、ただし、E14「詳細不明の糖尿病」は極力使用しないでください。)
- ・消化管潰瘍 (K25~K28、ただし、K27「部位不明の消化性潰瘍」は極力使用しないでください。)
- ・糸球体疾患 (N00~N08)

(ii) 5桁目が必須とされているものは以下に例示します。(\$を省いて例示)。

M14-M18、M20、M22、M30-M36、M50、M51、M63、M67、M68、M75、M92、M93、M95、M96 以外の M コード

S02、S06、S12、S22、S26、S27、S32、S36、S37、S42、S52、S62、S72、S82、S92、T02、T08、T10、T12、T142

A085、A778、F15、F603、P071、Q41、Q42、Q433

(3) 医療資源を最も投入した疾患については、ICD10 の A から T、U の一部までを利用してコーディングしてください。(ICD10 の Z「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」は使用しないでください。) また、症状、徴候等に関する分類 (R) は、確定診断名がつかない場合等のやむを得ない場合を除き、極力使用しないでください。なお、診断群分類においては、R040、R042、R048、R049、R560、R61\$, R730 のみが使用されています。

3) 新生物は、悪性、良性の区別をしてください。そして、傷病名の表示にもその意図がわかるように、必要に応じて良性や悪性の区別をしてください。病理結果を待っている場合等、不明な場合には、退院時点で限りなくこの傷病が疑われるというような観点で判断してください。ただし、行った診療行為と整合性が取れるようにご配慮ください。基本的に悪性新生物 (腫瘍) の場合、「悪性」または「癌」等の表示があることを原則とします。さらに、「再発」と「転移」はコードが異なることもご注意ください。また、傷病名についても明確に区別をしてください。

(例)

- (1) 上葉肺癌再発 (C34.1)
- (2) 転移性肺癌 (C78.0)
- (3) 乳癌術後胸壁再発 (C76.1 : 結合組織の場合 : C49.3)
- (4) 乳癌術後胸壁転移 (C79.8)
- (5) 上顎洞癌術後前頭洞再発 (C31.2)
- (6) 上顎洞癌術後前頭洞転移 (C78.3)

- 4) 部位の明示されない悪性新生物 (C80) 等、別添の「留意すべき ICD コード」がふられているデータについては、適切にコーディングし直してください。
- (1) C80 部位の明示されない悪性新生物 の使用は極力避けてください。
 - (2) C80 を使用する場合は、再度、部位等が明確にできないか見直してください。
 - (3) D37-D44、D48 性状不詳または不明の新生物の使用は極力避けてください。さらに、病理の結果などを見直してください。
- 5) 本調査においては、ダブルコーディングのルールは採用しません。
- (1) ダブルコーディングに該当する病名の場合は治療対象となったコードを優先させてください。
 - (2) 「+: 剣印」優先というルールもありません。また、ダブルコーディングの+、*印は入力しないでください。
 - (3) 治療対象となった傷病については、ICD のカテゴリーに所属することがわかるような傷病名を付与してください。
- (例)
- (1) 糖尿病性白内障 (H28.0) →○、糖尿病性白内障 (E14.3) →×
 - (2) 白内障を伴う 2 型糖尿病 (E11.3) →○、白内障を伴う 2 型糖尿病 (H28.0) →×
- 6) 骨折は開放性、閉鎖性の区別、部位を明確にして S コードで分類してください。(S02\$, S22\$, S32\$, S42\$, S52\$, 62\$, S72\$, S82\$, S92\$)、さらに、多部位の場合は、T02\$。
- 部位不明 (T08, T10, T12, T14\$) については、部位を明確にして、所定のコードに分類してください。
- ※基本的に骨折や外傷等については、部位の確認が可能であり、部位が明示されないという可能性はないはずなので、例えば、コンピュータの表示だけを鵜呑みにせず、正しい部位等を選択するように配慮してください。
- 7) 過去、提出されたデータに桁数が不適当なレコードが存在する場合がありますのでご注意ください。(コードは 3 桁なのに、4 桁目に 0 を入力している場合等)
- ※ICD は 3 桁から 5 桁の範囲を持ちますが、基礎調査の仕様では、3 桁の ICD コードの場合、残りの 2 桁は、「Null」ということになります。「スペース」や「ゼロ」ではありません。
- 8) 過去、提出されたデータに漢字の書き間違い、パソコンの変換ミス等が原因と思われる意味不明の傷病名、コーディングミス多数見受けられますのでご注意下さい。
- 9) 妊娠に合併した疾患のコーディングについて
- (1) 本調査では、今回治療対象となる疾患を医療資源を最も投入した傷病名としてコーディングしてください。Z33 を併存症としてコードしていただいても差し支えありません。
 - (2) 妊娠が合併した疾患の場合、今回治療対象とした診療科で ICD コードを使い分けてください。
例えば、「IgA 腎症合併妊娠」の場合、
 - ・産科的治療で入院した場合→O268
 - ・IgA 腎症の内科的治療のために入院した場合→N028
 - (3) 分娩方法は傷病名でないので、例えば帝王切開術を行ったことが最も投入した医療資源であればその原因となった傷病名を表示しコーディングしてください (前置胎盤等)。
- 10) 過去、傷病名に詳細な情報がないにも関わらず、詳細な ICD コードが付与されているケースが散見されますのでご注意ください。
- ※恐らく、診療録やサマリー等、当該レコードにある「傷病名」とそれ以外の情報とを併せて判断し、コーディングしたのではないかと推察されますが、基礎調査に関しての提出データは、傷病名と ICD コードは一対というものです。したがって、そのセットを一つのレコードと考えると、傷病名の記載と ICD の選択に粒度の差が出て、適切なデータとならないのでご注意ください。
- (例)
- (1) 「糖尿病」のみの記載→ E107 (インスリン依存性糖尿病<IDDM> 多発合併症を伴うもの)
 - (2) 「上皮内癌」のみの記載→ D067 (子宮頸 (部) のその他の部位の上皮内癌)、他
- ※ただし、この場合、傷病名が非常に曖昧な表記になっていることが多く、恐らく ICD の方が正確であるはずなので、より詳細な情報を持った傷病名を記載するように配慮してください。
- 11) ICD のルールには世界的なレベルで用いるという目的があり、曖昧な情報への対処方法が定められてい

ます。それに準拠したコーディング自体は誤っているとはいえないものの、いくら正確なコーディングを行う努力をしても、適切とはいえない傷病名に対するコーディングは、結果として正しい ICD コードを表現することが出来ないこととなります。つまり、傷病名自体が極めて曖昧な場合は、ICD コーディングの精度以前の問題となりますので、その場合は、主治医等を含めて適正な傷病名であるのか必ず確認してください。特に、DPC の場合は、臨床的な視点からの傷病名付与とそれにマッチした ICD コーディングを求めていますので、出来るだけ詳細な傷病名の表示と正確な ICD コーディングをしてください。また、入院時に診断名不確定の場合は、十分な注意をしてください。極めて曖昧な傷病名の例を示します。

(例)

(1) 「カルチノイド」 → C80 (部位の明示されない悪性新生物)

(2) 「感染症」 → B99 (その他および詳細不明の感染症)

※この例は、傷病名が曖昧で、精度の高いコーディングするための情報が不足していることを表しています。

12) 傷病名と扱うことが困難な「傷病名」の存在

「状態」、「治療法」等をそのまま傷病名としている多くの例があります。そもそも、本来の意味からして、特に「治療法」と「傷病名」は全く異なる概念であり、傷病名として扱うことには無理がありません。例えば、透析状態、化学療法後等のパターンは多く見られるので、ご注意ください。

(例)

(1) 「膀胱全摘状態」 → C679 (膀胱の悪性新生物, 部位不明)

(2) 「正常新生児」 → Z380 (単胎児, 院内出生)

※上記の例、「正常新生児」というレコードについては、単純に施設として出生の結果を表現しているかと推察されますが、基礎調査についてはあくまでも入院患者対象であり、このような場合は、データ提出時に削除が必要ですのでご注意ください。(データ提出時に「患者数」とマッチしているかご確認ください：正常新生児は調査対象患者ではありません)。

13) 傷病名が途中で切れていると推察されるものの存在

恐らく、データベースのフィールドの制限もしくは桁数オーバーで正常な表示が出来ない場合に起こったと推察されます。基本的に、「ICD の分類名」と「臨床病名」は異なるものであり、以下に示す例については、ICD の分類名をそのまま表示しようとしてエラー (途中で切れている) というケースです。

(例)

(1) D477、リンパ組織、造血組織および関連組織の性状不詳または不明のその他の明示さ (以降が切れている)

(2) K566、麻痺性イレウスおよび腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの、その他および詳細不 (以降が切れている)

※過去の基礎調査で出現したデータから例示していますが、そもそも、上記の「傷病名」が正しく表示されたとしても、それは ICD の分類名であって、「傷病名」として受け入れられないのでご注意ください。

14) 傷病名に、複数の傷病名要素を含むために曖昧なコーディングとなっている、もしくはコーディングそのものが出来ない

多発性の外傷等の一部の分野を除くと、基本的に ICD で個別に定義された傷病名は、各々を記載し、各々について ICD コーディングを行う必要があります。しかし、複数の傷病名を一つの傷病名として、正確には一つの傷病名のフィールドに複数の傷病名が入力されているケースがみられます。

(例)

(1) 「呼吸不全、C 型肝炎」 → コードは J969 (呼吸不全, 詳細不明)

※呼吸不全、C 型肝炎は別疾患として傷病名の標記をし、個別にコーディングする必要がある (しかし、呼吸不全、C 型肝炎という傷病名そのものも正しいコーディングをするにあたり十分な情報を持っていないので、適切な傷病名の付与ではない)

(2) 「脱水症、S/O 脳梗塞」 → E86 (体液量減少 (症))

※この例も、傷病名そのものに問題を抱えている

15) いわゆる「R」コードの取り扱いについて：

医療資源を最も投入した傷病名に対する ICD が「R」、すなわち、「症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)」に分類され、手術をしている場合、恐らく確定診断がなされているはずなので、傷病名の再確認をしてください。

基本的な問題として R コードは「その症例に関するあらゆる事実を調査したにもかかわらず、それ以上

明確な診断を下せなかった」場合や「一過性の徴候や症状」等に、限定的に使用すべきであるとされています。したがって、継続的な入院期間を対象とした本基礎調査においては、ほぼ全ての症例について何らかの診断がなされることが一般的と思われます。

※定義は、ICD-10（内容例示表）第2巻、第XVIII章、737ページをご確認ください。

（例）

(1) 「不明熱（R509）」 → リンパ節摘出術（長径3cm未満）（K6261）

(2) 「多臓器不全（R688）」 → 経皮的冠動脈形成術（K614）

※このような事例の発生は、入院当初の診断名未確定というケースに、確定診断名を確認することなしに修正されなかったことが原因だと推察されます。診断名が不明確な場合は、再度、傷病名が確定していないか確認してください。

留意すべきICDコード

- ※以下のICD分類は、他のコードが候補になり得る可能性が高いものを例示したものである。
- ※すなわち、下記のICD分類例のほとんどは、部位や病態等を確認することによって、他のコードに分類される可能性が高いものを示している。
- ※「医療資源を最も投入した疾患」に付与することを前提としたものである。
- ※以下に留意すべきとしたコードはほぼすべてレセ電算病名にも含まれるので注意のこと。
- ※M99\$を除くM分類について、5桁目を必要とする場合、5桁目が「.9」になることはない。
- ※R分類については、全てにおいて他に分類出来ないか再検討を要する。
- ※部位不明・詳細不明コードについては、分類名に「●●不明」、「●●不詳」(例: 部位不明、性状不詳)の単語が記載されているものであって、4桁以上のICDコードで判定する。評価対象は、「医療資源最傷病名」とする。

※部位不明・詳細不明コードについては、現在精査中につき後日掲載予定

中分類名称等	ICDコード	留意すべきICD分類名称	部位不明・詳細不明コード
腸管感染症(A00-A09)	A009	コレラ, 詳細不明	
腸管感染症(A00-A09)	A014	バラチフス, 詳細不明	
腸管感染症(A00-A09)	A029	サルモネラ感染症, 詳細不明	
腸管感染症(A00-A09)	A039	細菌性赤痢, 詳細不明	
腸管感染症(A00-A09)	A049	細菌性腸管感染症, 詳細不明	
腸管感染症(A00-A09)	A059	細菌性食中毒, 詳細不明	
腸管感染症(A00-A09)	A069	アメーバ症, 詳細不明	
腸管感染症(A00-A09)	A079	原虫性腸疾患, 詳細不明	
腸管感染症(A00-A09)	A084	ウイルス性腸管感染症, 詳細不明	
結核(A15-A19)	A153	肺結核, 確認されてはいるが、その方法については詳細不明のもの	
結核(A15-A19)	A159	詳細不明の呼吸器結核, 細菌学的または組織学的に確認されたもの	
結核(A15-A19)	A169	詳細不明の呼吸器結核, 細菌学的または組織学的確認の記載がないもの	
結核(A15-A19)	A179	神経系結核, 詳細不明 (G99.8*)	
結核(A15-A19)	A192	急性粟粒結核, 詳細不明	
結核(A15-A19)	A199	粟粒結核, 詳細不明	
人畜共通細菌性疾患(A20-A28)	A209	ペスト, 詳細不明	
人畜共通細菌性疾患(A20-A28)	A219	野兔病<ツレミア>, 詳細不明	
人畜共通細菌性疾患(A20-A28)	A229	炭疽, 詳細不明	
人畜共通細菌性疾患(A20-A28)	A239	ブルセラ症, 詳細不明	
人畜共通細菌性疾患(A20-A28)	A244	類鼻疽, 詳細不明	
人畜共通細菌性疾患(A20-A28)	A259	鼠咬症, 詳細不明	
人畜共通細菌性疾患(A20-A28)	A269	類丹毒, 詳細不明	
人畜共通細菌性疾患(A20-A28)	A279	レプトスピラ症, 詳細不明	
人畜共通細菌性疾患(A20-A28)	A289	人畜共通細菌性疾患, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A309	らい<癩><ハンセン<Hansen>病>, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A319	非結核性抗酸菌感染症, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A329	リステリア症, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A369	ジフテリア, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A379	百日咳, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A394	髄膜炎菌菌血症, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A399	髄膜炎菌感染症, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A409	レンサ球菌性敗血症, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A412	詳細不明のブドウ球菌による敗血症	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A419	敗血症, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A429	放線菌症<アクテノミセス症>, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A439	ノカルジア症, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A449	バルトネラ症, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A490	ブドウ球菌感染症, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A491	レンサ球菌感染症, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A492	インフルエンザ菌感染症, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A493	マイコプラズマ感染症, 詳細不明	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A498	部位不明のその他の細菌感染症	
その他の細菌性疾患(A30-A49)	A499	細菌感染症, 詳細不明	
主として性的伝播様式をとる感染症(A50-A64)	A502	早期先天梅毒, 詳細不明	
主として性的伝播様式をとる感染症(A50-A64)	A507	晩期先天梅毒, 詳細不明	
主として性的伝播様式をとる感染症(A50-A64)	A509	先天梅毒, 詳細不明	
主として性的伝播様式をとる感染症(A50-A64)	A519	早期梅毒, 詳細不明	
主として性的伝播様式をとる感染症(A50-A64)	A523	神経梅毒, 詳細不明	
主として性的伝播様式をとる感染症(A50-A64)	A529	晩期梅毒, 詳細不明	
主として性的伝播様式をとる感染症(A50-A64)	A530-A539	この範囲の全て	
主として性的伝播様式をとる感染症(A50-A64)	A549	淋菌感染症, 詳細不明	
主として性的伝播様式をとる感染症(A50-A64)	A562	尿路性器のクラミジア感染症, 詳細不明	
主として性的伝播様式をとる感染症(A50-A64)	A599	トリコモナス症, 詳細不明	
主として性的伝播様式をとる感染症(A50-A64)	A609	肛門性器ヘルペスウイルス感染症, 詳細不明	
主として性的伝播様式をとる感染症(A50-A64)	A64	性的伝播様式をとる詳細不明の感染症	

中分類名称等	ICDコード	留意すべきICD分類名称	部位不明・詳細不明コード
その他のスピロヘータ疾患(A65-A69)	A660-A699	この範囲の「.9」となるもの	
クラミアによるその他の疾患(A70-A74)	A710-A749	この範囲の「.9」となるもの	
リケッチア症(A75-A79)	A750-A799	この範囲の「.9」となるもの	
中枢神経系のウイルス感染症(A80-A89)	A803	急性麻痺性灰白髄炎<ポリオ>, その他および詳細不明	
中枢神経系のウイルス感染症(A80-A89)	A809	急性灰白髄炎<ポリオ>, 詳細不明	
中枢神経系のウイルス感染症(A80-A89)	A819	中枢神経系の非定型ウイルス感染症, 詳細不明	
中枢神経系のウイルス感染症(A80-A89)	A829	狂犬病, 詳細不明	
中枢神経系のウイルス感染症(A80-A89)	A839	蚊媒介ウイルス(性)脳炎, 詳細不明	
中枢神経系のウイルス感染症(A80-A89)	A849	ダニ媒介ウイルス(性)脳炎, 詳細不明	
中枢神経系のウイルス感染症(A80-A89)	A852	節足動物媒介ウイルス(性)脳炎, 詳細不明	
中枢神経系のウイルス感染症(A80-A89)	A86	詳細不明のウイルス(性)脳炎	
中枢神経系のウイルス感染症(A80-A89)	A879	ウイルス(性)髄膜炎, 詳細不明	
中枢神経系のウイルス感染症(A80-A89)	A89	中枢神経系の詳細不明のウイルス感染症	
節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス性出血熱(A90-A99)	A929	蚊媒介ウイルス熱, 詳細不明	
節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス性出血熱(A90-A99)	A94	詳細不明の節足動物媒介ウイルス熱	
節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス性出血熱(A90-A99)	A959	黄熱, 詳細不明	
節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス性出血熱(A90-A99)	A969	アレナウイルス出血熱, 詳細不明	
節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス性出血熱(A90-A99)	A99	詳細不明のウイルス性出血熱	
皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症(B00-B09)	B009	ヘルペスウイルス感染症, 詳細不明	
皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症(B00-B09)	B09	詳細不明の皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	
ウイルス肝炎(B15-B19)	B189	慢性ウイルス肝炎, 詳細不明	
ウイルス肝炎(B15-B19)	B190-B199	この範囲の全て	
ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病(B20-B24)	B209	詳細不明の感染症または寄生虫症を起こしたHIV病	
ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病(B20-B24)	B219	詳細不明の悪性新生物を起こしたHIV病	
ヒト免疫不全ウイルス[HIV]病(B20-B24)	B24	詳細不明のヒト免疫不全ウイルス[HIV]病	
その他のウイルス疾患(B25-B34)	B259	サイトメガロウイルス病, 詳細不明	
その他のウイルス疾患(B25-B34)	B279	伝染性単核症, 詳細不明	
その他のウイルス疾患(B25-B34)	B309	ウイルス(性)結膜炎, 詳細不明	
その他のウイルス疾患(B25-B34)	B340-B349	この範囲の全て	
真菌症(B35-B49)	B359	皮膚糸状菌症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B369	表在性真菌症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B379	カンジダ症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B382	肺コクシジオイデス症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B389	コクシジオイデス症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B392	カプスラーツム肺ヒストプラズマ症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B394	カプスラーツムヒストプラズマ症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B399	ヒストプラズマ症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B402	肺プラストミセス症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B409	プラストミセス症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B419	パラコクシジオイデス症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B429	スポロトリコーシス, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B439	クロモミコーシス, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B449	アスペルギルス症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B459	クリプトコッカス症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B465	ムーコル<ムコール>症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B469	接合菌症, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B479	菌腫, 詳細不明	
真菌症(B35-B49)	B49	詳細不明の真菌症	
原虫疾患(B50-B64)	B509	熱帯熱マラリア, 詳細不明	
原虫疾患(B50-B64)	B54	詳細不明のマラリア	
原虫疾患(B50-B64)	B559	リーシュマニア症, 詳細不明	
原虫疾患(B50-B64)	B569	アフリカ トリパノソーマ症, 詳細不明	
原虫疾患(B50-B64)	B589	トキソプラズマ症, 詳細不明	
原虫疾患(B50-B64)	B64	詳細不明の原虫疾患	
ぜんく<蠕>虫症(B65-B83)	B659	住血吸虫症, 詳細不明	
ぜんく<蠕>虫症(B65-B83)	B669	吸虫感染症, 詳細不明	
ぜんく<蠕>虫症(B65-B83)	B674	単包条虫感染症, 詳細不明	
ぜんく<蠕>虫症(B65-B83)	B677	多包条虫感染症, 詳細不明	
ぜんく<蠕>虫症(B65-B83)	B678	肝の詳細不明のエキ<ヒ>ノコックス症	
ぜんく<蠕>虫症(B65-B83)	B679	エキ<ヒ>ノコックス症, その他および詳細不明	
ぜんく<蠕>虫症(B65-B83)	B689	条虫症, 詳細不明	
ぜんく<蠕>虫症(B65-B83)	B699	のう<囊>(尾)虫症, 詳細不明	
ぜんく<蠕>虫症(B65-B83)	B719	条虫感染症, 詳細不明	
ぜんく<蠕>虫症(B65-B83)	B749	フィラリア症<糸状虫症>, 詳細不明	
ぜんく<蠕>虫症(B65-B83)	B769	鉤虫症, 詳細不明	

中分類名称等	ICDコード	留意すべきICD分類名称	部位不明・詳細不明コード
ぜんく蟻>虫症(B65-B83)	B779	回く蟻>虫症, 詳細不明	
ぜんく蟻>虫症(B65-B83)	B789	糞線虫症, 詳細不明	
ぜんく蟻>虫症(B65-B83)	B820-B829	この範囲の全て	
ぜんく蟻>虫症(B65-B83)	B839	ぜんく蟻>虫症, 詳細不明	
シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生症(B85-B89)	B852	シラミ症, 詳細不明	
シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生症(B85-B89)	B879	ハエ幼虫症, 詳細不明	
シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生症(B85-B89)	B889	寄生症, 詳細不明	
シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生症(B85-B89)	B89	詳細不明の寄生虫症	
感染症および寄生虫症の続発・後遺症(B90-B94)	B909	呼吸器および詳細不明の結核の続発・後遺症	
感染症および寄生虫症の続発・後遺症(B90-B94)	B94	その他および詳細不明の感染症および寄生虫症の続発・後遺症	
感染症および寄生虫症の続発・後遺症(B90-B94)	B949	詳細不明の感染症または寄生虫症の続発・後遺症	
細菌、ウイルスおよびその他の病原体(B95-B97)	B955	他章に分類される疾患の原因である詳細不明のレンサ球菌の感染症	
細菌、ウイルスおよびその他の病原体(B95-B97)	B958	他章に分類される疾患の原因である詳細不明のブドウ球菌の感染症	
その他の感染症(B99)	B99	その他および詳細不明の感染症	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C002	外側口唇の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C005	口唇の悪性新生物, 部位不明, 内側面	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C009	口唇の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C023	舌の前3分の2の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C028	その他および部位不明の舌の悪性新生物 舌の境界部病巣	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C029	舌の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C039	歯肉の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C049	口(腔)底の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C059	口蓋の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C068	その他および部位不明の口腔の悪性新生物 その他および部位不明の口腔の境界部病巣	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C069	口腔の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C088	その他および部位不明の大唾液腺の悪性新生物 大唾液腺の境界部病巣	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C089	大唾液腺の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C099	扁桃の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C109	中咽頭の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C119	鼻<上>咽頭の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C139	下咽頭の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C140	咽頭の悪性新生物, 部位不明	
口唇、口腔および喉頭の悪性新生物(C00-C14)	C148	その他および部位不明の口唇、口腔および咽頭の悪性新生物 口唇、口腔および咽頭の境界部病巣	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C159	食道の悪性新生物, 部位不明	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C165	胃小弯の悪性新生物, 部位不明	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C166	胃大弯の悪性新生物, 部位不明	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C169	胃の悪性新生物, 部位不明	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C179	小腸の悪性新生物, 部位不明	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C189	結腸の悪性新生物, 部位不明	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C210	肛門の悪性新生物, 部位不明	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C229	肝の悪性新生物, 詳細不明	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C248	その他および部位不明の胆道の悪性新生物 胆道の境界部病巣	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C249	胆道の悪性新生物, 部位不明	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C259	膵の悪性新生物, 部位不明	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C260	腸管の悪性新生物, 部位不明	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C268	その他および部位不明の消化器の悪性新生物 消化器系の境界部病巣	
消化器の悪性新生物(C15-C26)	C269	消化器系の悪性新生物, 部位不明確	
呼吸器および胸腔内臓器の悪性新生物(C30-C39)	C319	副鼻腔の悪性新生物, 部位不明	
呼吸器および胸腔内臓器の悪性新生物(C30-C39)	C329	喉頭の悪性新生物, 部位不明	
呼吸器および胸腔内臓器の悪性新生物(C30-C39)	C349	気管支または肺の悪性新生物, 部位不明	
呼吸器および胸腔内臓器の悪性新生物(C30-C39)	C383	縦隔の悪性新生物, 部位不明	
呼吸器および胸腔内臓器の悪性新生物(C30-C39)	C390	上気道の悪性新生物, 部位不明	
呼吸器および胸腔内臓器の悪性新生物(C30-C39)	C398	その他および部位不明の呼吸器系および胸腔内臓器の悪性新生物 呼吸器および胸腔内臓器の境	
呼吸器および胸腔内臓器の悪性新生物(C30-C39)	C399	呼吸器系の悪性新生物, 部位不明確	
骨および関節軟骨の悪性新生物(C40-C41)	C409	(四)肢の骨および関節軟骨の悪性新生物, 部位不明	
骨および関節軟骨の悪性新生物(C40-C41)	C418	その他および部位不明の骨および関節軟骨の悪性新生物 骨および関節軟骨の境界部病巣	
骨および関節軟骨の悪性新生物(C40-C41)	C419	骨および関節軟骨の悪性新生物, 部位不明	
皮膚の黒色腫およびその他の悪性新生物(C43-C44)	C433	その他および部位不明の顔面の悪性黒色腫	
皮膚の黒色腫およびその他の悪性新生物(C43-C44)	C439	皮膚の悪性黒色腫, 部位不明	
皮膚の黒色腫およびその他の悪性新生物(C43-C44)	C443	その他および部位不明の顔面の皮膚の悪性新生物	
皮膚の黒色腫およびその他の悪性新生物(C43-C44)	C449	皮膚の悪性新生物, 部位不明	
中皮および軟部組織の悪性新生物(C45-C49)	C459	中皮腫, 部位不明	
中皮および軟部組織の悪性新生物(C45-C49)	C469	カポジ<Kaposi>肉腫, 部位不明	
中皮および軟部組織の悪性新生物(C45-C49)	C476	体幹の末梢神経の悪性新生物, 部位不明	
中皮および軟部組織の悪性新生物(C45-C49)	C479	末梢神経および自律神経系の悪性新生物, 部位不明	

中分類名称等	ICDコード	留意すべきICD分類名称	部位不明・詳細不明コード
中皮および軟部組織の悪性新生物(C45-C49)	C482	腹膜の悪性新生物, 部位不明	
中皮および軟部組織の悪性新生物(C45-C49)	C496	体幹の結合組織および軟部組織の悪性新生物, 部位不明	
中皮および軟部組織の悪性新生物(C45-C49)	C499	結合組織および軟部組織の悪性新生物, 部位不明	
乳房の悪性新生物(C50)	C509	乳房の悪性新生物, 部位不明	
女性生殖器の悪性新生物(C51-C58)	C519	外陰(部)の悪性新生物, 部位不明	
女性生殖器の悪性新生物(C51-C58)	C539	子宮頸(部)の悪性新生物, 部位不明	
女性生殖器の悪性新生物(C51-C58)	C549	子宮体部の悪性新生物, 部位不明	
女性生殖器の悪性新生物(C51-C58)	C55	子宮の悪性新生物, 部位不明	
女性生殖器の悪性新生物(C51-C58)	C574	子宮付属器の悪性新生物, 部位不明	
女性生殖器の悪性新生物(C51-C58)	C579	女性生殖器の悪性新生物, 部位不明	
男性生殖器の悪性新生物(C60-C63)	C609	陰茎の悪性新生物, 部位不明	
男性生殖器の悪性新生物(C60-C63)	C629	精巣<睾丸>の悪性新生物, 部位不明	
男性生殖器の悪性新生物(C60-C63)	C638	男性生殖器の境界部病巣	
男性生殖器の悪性新生物(C60-C63)	C639	男性生殖器の悪性新生物, 部位不明	
腎尿路の悪性新生物(C64-C68)	C679	膀胱の悪性新生物, 部位不明	
腎尿路の悪性新生物(C64-C68)	C688	腎尿路の境界部病巣	
腎尿路の悪性新生物(C64-C68)	C689	尿路の悪性新生物, 部位不明	
眼、脳およびその他の中枢神経系の部位の悪性新生物(C69-C72)	C699	眼の悪性新生物, 部位不明	
眼、脳およびその他の中枢神経系の部位の悪性新生物(C69-C72)	C709	髄膜の悪性新生物, 部位不明	
眼、脳およびその他の中枢神経系の部位の悪性新生物(C69-C72)	C719	脳の悪性新生物, 部位不明	
眼、脳およびその他の中枢神経系の部位の悪性新生物(C69-C72)	C725	その他および部位不明の脳神経の悪性新生物	
眼、脳およびその他の中枢神経系の部位の悪性新生物(C69-C72)	C729	中枢神経系の悪性新生物, 部位不明	
甲状腺およびその他の内分泌腺の悪性新生物(C73-C75)	C749	副腎の悪性新生物, 部位不明	
甲状腺およびその他の内分泌腺の悪性新生物(C73-C75)	C758	その他の内分泌腺および関連組織の悪性新生物 複数の内分泌腺, 部位不明	
甲状腺およびその他の内分泌腺の悪性新生物(C73-C75)	C759	その他の内分泌腺および関連組織の悪性新生物 内分泌腺, 部位不明	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C760	その他および部位不明確の悪性新生物 頭部、顔面および頸部の悪性新生物	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C761	その他および部位不明確の悪性新生物 胸部<郭>の悪性新生物	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C762	その他および部位不明確の悪性新生物 腹部の悪性新生物	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C763	その他および部位不明確の悪性新生物 骨盤の悪性新生物	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C764	その他および部位不明確の悪性新生物 上肢の悪性新生物	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C765	その他および部位不明確の悪性新生物 下肢の悪性新生物	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C767	その他および部位不明確の悪性新生物 その他の不明確な部位の悪性新生物	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C768	その他および部位不明確の悪性新生物 その他および部位不明確の境界部病巣	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C779	リンパ節の悪性新生物, 部位不明	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C783	中耳ならびにその他および部位不明の呼吸器の続発性悪性新生物	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C788	その他および部位不明の消化器の続発性悪性新生物	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C791	膀胱ならびにその他および部位不明の尿路の続発性悪性新生物	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C794	眼ならびにその他および部位不明の中枢神経系の続発性悪性新生物	
部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物(C76-C80)	C80	部位の明示されない悪性新生物	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C819	ホジキン<Hodgkin>病, 詳細不明	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C829	ろく濾>胞性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫, 詳細不明	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C839	びまん性非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫, 詳細不明	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C845	その他および詳細不明のT細胞リンパ腫	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C851	B細胞リンパ腫, 詳細不明	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C859	非ホジキン<non-Hodgkin>リンパ腫, 型不明	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C889	悪性免疫増殖性疾患, 詳細不明	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C919	リンパ性白血病, 詳細不明	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C929	骨髄性白血病, 詳細不明	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C939	単球性白血病, 詳細不明	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C950	細胞型不明の急性白血病	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C951	細胞型不明の慢性白血病	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C952	細胞型不明の垂急性白血病	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C957	細胞型不明のその他の白血病	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C959	白血病, 詳細不明	
リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物(C81-C96)	C969	リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物, 詳細不明	
上皮内新生物(D00-D09)	D014	その他および部位不明の腸の上皮内癌	
上皮内新生物(D00-D09)	D019	消化器の上皮内癌, 部位不明	
上皮内新生物(D00-D09)	D024	呼吸器系の上皮内癌, 部位不明	
上皮内新生物(D00-D09)	D033	その他および部位不明の顔面の上皮内黒色腫	
上皮内新生物(D00-D09)	D039	上皮内黒色腫, 部位不明	
上皮内新生物(D00-D09)	D043	その他および部位不明の顔面の皮膚の上皮内癌	
上皮内新生物(D00-D09)	D049	皮膚の上皮内癌, 部位不明	
上皮内新生物(D00-D09)	D059	乳房の上皮内癌, 部位不明	
上皮内新生物(D00-D09)	D069	子宮頸(部)の上皮内癌, 部位不明	
上皮内新生物(D00-D09)	D073	その他および部位不明の女性生殖器の上皮内癌	

中分類名称等	ICDコード	留意すべきICD分類名称	部位不明・詳細不明コード
上皮内新生物(D00-D09)	D076	その他および部位不明の男性生殖器の上皮内癌	
上皮内新生物(D00-D09)	D091	その他および部位不明の腎尿路の上皮内癌	
上皮内新生物(D00-D09)	D099	上皮内癌, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D103	口腔のその他および部位不明の良性新生物	
良性新生物(D10-D36)	D109	咽頭の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D119	大唾液腺の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D126	結腸の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D133	その他および部位不明の小腸の良性新生物	
良性新生物(D10-D36)	D139	消化器系の良性新生物, 部位不明確	
良性新生物(D10-D36)	D144	呼吸器系の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D159	胸腔内臓器の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D169	骨および関節軟骨の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D173	その他および部位不明の皮膚および皮下組織の良性脂肪腫性新生物(脂肪腫を含む)	
良性新生物(D10-D36)	D179	良性脂肪腫性新生物(脂肪腫を含む), 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D199	中皮組織の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D216	体幹の結合組織およびその他の軟部組織の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D219	結合組織およびその他の軟部組織の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D223	その他および部位不明の顔面のメラニン細胞性母斑の良性新生物	
良性新生物(D10-D36)	D229	メラニン細胞性母斑の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D233	その他および部位不明の顔面の皮膚の良性新生物	
良性新生物(D10-D36)	D239	皮膚の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D259	子宮平滑筋腫, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D269	子宮の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D289	女性生殖器の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D299	男性生殖器の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D309	尿路の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D316	眼窩の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D319	眼の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D329	髄膜の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D332	脳の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D339	中枢神経系の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D358	その他および部位不明の内分泌腺の良性新生物 複数の内分泌腺	
良性新生物(D10-D36)	D359	内分泌腺の良性新生物, 部位不明	
良性新生物(D10-D36)	D367	その他および部位不明の良性新生物 その他の明示された部位	
良性新生物(D10-D36)	D369	その他および部位不明の良性新生物 部位不明の良性新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D370	口唇, 口腔および咽頭の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D371	胃の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D372	小腸の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D373	虫垂の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D374	結腸の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D375	直腸の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D376	肝, 胆のうく囊>および胆管の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D377	その他の消化器の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D379	消化器の性状不詳または不明の新生物, 部位不明	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D380	喉頭の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D381	気管, 気管支および肺の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D382	胸膜の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D383	縦隔の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D384	胸腺の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D385	その他の呼吸器の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D386	呼吸器の性状不詳または不明の新生物, 部位不明	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D390	子宮の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D391	卵巣の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D392	胎盤の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D397	その他の女性生殖器の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D399	女性生殖器の性状不詳または不明の新生物, 部位不明	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D400	前立腺の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D401	精巣<睾丸>の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D407	その他の男性生殖器の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D409	男性生殖器の性状不詳または不明の新生物, 部位不明	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D410	腎の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D411	腎盂の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D412	尿管の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D413	尿道の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D414	膀胱の性状不詳または不明の新生物	

中分類名称等	ICDコード	留意すべきICD分類名称	部位不明・詳細不明コード
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D417	その他の尿路の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D419	尿路の性状不詳または不明の新生物, 部位不明	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D420	脳髄膜の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D421	脊髄膜の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D429	髄膜の性状不詳または不明の新生物, 部位不明	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D430	脳の性状不詳または不明の新生物, テント上	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D431	脳の性状不詳または不明の新生物, テント下	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D432	脳の性状不詳または不明の新生物, 部位不明	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D433	脳神経の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D434	脊髄の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D437	中枢神経系のその他の部位の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D439	中枢神経系の性状不詳または不明の新生物, 部位不明	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D440	甲状腺の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D441	副腎の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D442	上皮小体<副甲状腺>の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D443	下垂体の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D444	頭蓋咽頭管の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D445	松果体の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D446	D44.6 頸動脈小体の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D447	大動脈小体およびその他のパラングリア<傍神経節>の性状不詳または不明の新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D448	内分泌腺の性状不詳または不明の新生物 複数の内分泌腺	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D449	内分泌腺の性状不詳または不明の新生物, 部位不明	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D464	骨髄異形成症候群 不応性貧血, 詳細不明	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D469	骨髄異形成症候群, 詳細不明	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D470	性状不詳および不明の組織球性および肥満細胞性腫瘍	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D477	リンパ組織, 造血組織および関連組織の性状不詳または不明のその他の明示された新生物	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D479	リンパ組織, 造血組織および関連組織の性状不詳または不明の新生物, 詳細不明	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D480	その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物 骨および関節軟骨	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D481	その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物 結合組織およびその他の軟部組織	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D482	その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物 末梢神経および自律神経系	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D483	その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物 後腹膜	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D484	その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物 腹膜	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D485	その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物 皮膚	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D486	その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物 乳房	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D487	その他および部位不明の性状不詳または不明の新生物 その他の明示された部位	
性状不詳または不明の新生物(D37-48)	D489	性状不詳または不明の新生物, 部位不明	
栄養性貧血(D50-D53)	D500-D539	この範囲の「9」となるもの	
溶血性貧血(D55-D59)	D559	酵素障害による貧血, 詳細不明	
溶血性貧血(D55-D59)	D569	サラセミア<地中海貧血>, 詳細不明	
溶血性貧血(D55-D59)	D589	遺伝性溶血性貧血, 詳細不明	
溶血性貧血(D55-D59)	D599	後天性溶血性貧血, 詳細不明	
無形成性貧血およびその他の貧血(D60-D64)	D609	後天性赤芽球ろう<癆>, 詳細不明	
無形成性貧血およびその他の貧血(D60-D64)	D619	無形成性貧血, 詳細不明	
無形成性貧血およびその他の貧血(D60-D64)	D649	貧血, 詳細不明	
凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態(D65-D69)	D689	凝固障害, 詳細不明	
凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態(D65-D69)	D696	血小板減少症, 詳細不明	
凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態(D65-D69)	D699	出血性病態, 詳細不明	
血液および造血器のその他の疾患(D70-D77)	D720-D759	この範囲の「9」となるもの	
免疫機構の障害(D80-D89)	D809	主として抗体欠乏を伴う免疫不全症, 詳細不明	
免疫機構の障害(D80-D89)	D819	複合免疫不全症, 詳細不明	
免疫機構の障害(D80-D89)	D829	大きな欠損に関連する免疫不全症, 詳細不明	
免疫機構の障害(D80-D89)	D839	分類不能型免疫不全症, 詳細不明	
免疫機構の障害(D80-D89)	D849	免疫不全症, 詳細不明	
免疫機構の障害(D80-D89)	D869	サルコイドーシス, 詳細不明	
免疫機構の障害(D80-D89)	D892	高ガンマグロブリン血症, 詳細不明	
免疫機構の障害(D80-D89)	D899	免疫機構の障害, 詳細不明	
甲状腺障害(E00-E07)	E009	先天性ヨード欠乏症候群, 詳細不明	
甲状腺障害(E00-E07)	E012	ヨード欠乏による(地方病性)甲状腺腫, 詳細不明	
甲状腺障害(E00-E07)	E039	甲状腺機能低下症, 詳細不明	
甲状腺障害(E00-E07)	E049	非中毒性甲状腺腫, 詳細不明	
甲状腺障害(E00-E07)	E059	甲状腺中毒症, 詳細不明	
甲状腺障害(E00-E07)	E069	甲状腺炎, 詳細不明	
甲状腺障害(E00-E07)	E079	甲状腺障害, 詳細不明	
糖尿病(E10-E14)	E108	インスリン依存性糖尿病<IDDM> 詳細不明の合併症を伴うもの	
糖尿病(E10-E14)	E118	インスリン非依存性糖尿病<NIDDM> 詳細不明の合併症を伴うもの	